

【全体概要】

本県では、近年、若年層を中心に収益性の高いぶどうの新規生産者が増加している。一方、消費者ニーズの高い「シャインマスカット」や赤色系大粒品種等では、主産県と比べて高温・多雨等の気象条件下での枝葉の繁茂等により、果粒肥大の抑制や糖度上昇及び着色の遅れ等が問題となっており、新規生産者の経営の安定化と今後の導入推進の足かせとなることが懸念されている。

そこで、新梢管理方法を中心とした本県に適した高品質安定生産技術の確立と普及を図り、経営の安定化と地場産ぶどうの供給拡大を図る。

新品種・新技術等の概要

新梢管理による果粒肥大促進技術の確立

- 検証品種
「シャインマスカット」
- 検証内容
新梢管理(摘心程度)と樹相(LAI)及び果実品質(果粒肥大)との関係

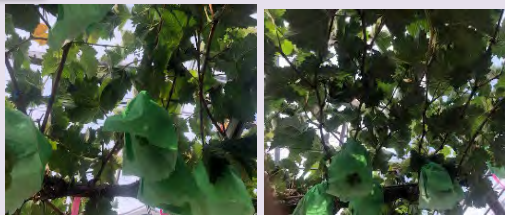


図 新梢管理(摘心)と収穫前の樹相(LAI) 左:房元摘心1枚、右:5枚

資材を利用した果実品質向上技術の確立

- 検証品種
「シャインマスカット」
- 検証内容
傘かけ資材と果実品質の関係

図 房元の副梢に対する摘心程度がLAI及び1粒重に及ぼす影響

区	LAI	1房当たり 葉面積(m ²)	1粒重 (g)
房元1枚摘心	1.8	1.3	10.1
房元5枚摘心	2.2	1.1	11.8

着果管理による高品質果実生産技術の確立

- 検証品種
「シャインマスカット」、「ブラックビート」
- 検証内容
着房位置と果実品質の関係

環状はく皮処理による着色向上技術の確立

- 検証品種
「クインニーナ」等赤色系品種
- 検証内容
結果枝単位の環状はく皮処理と果実品質(果房着色程度)との関係

主な取組内容

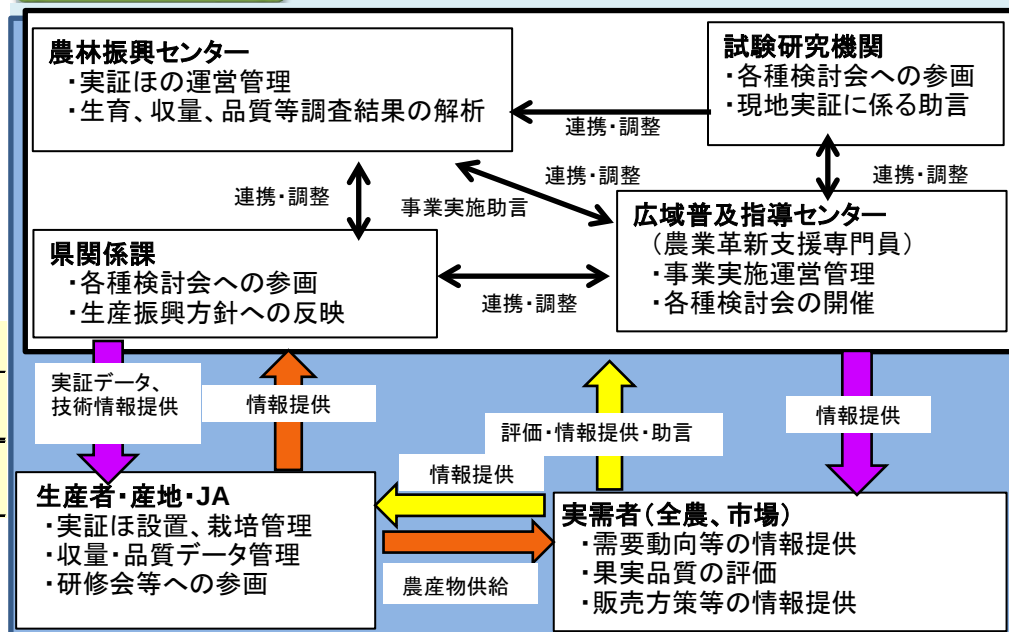
【検討会】

- ・実証ほの設計・成績検討会(4月、2月)

【技術の現地検証】

- ・新梢管理による果粒肥大促進技術の確立(4か所)
- ・着果管理による高品質果実生産技術の確立(2か所)
- ・資材を利用した果実品質向上技術の確立(2か所)

実施体制図



課題と今後の対応

- ・技術実証のうち、新梢管理による果粒肥大促進技術については、房元副梢の摘心処理程度により果粒肥大効果が認められたが、目標とする果粒重(12～15g)には到達しなかったことから、今後、異なる摘心処理によりさらなる果粒肥大促進効果を検討する。
- ・新たに赤色系品種に対する環状はく皮処理による着色向上効果について技術実証ほを設置し検討を行う。